

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十七主日礼拝のしおり

2022 年 10 月 2 日

前奏

招きのことば：詩編 37 編 1-6 節

【ダビデの詩】 悪事を謀る者のことであら立つな。不正を行う者をうらやむな。
彼らは草のように瞬く間に枯れる。青草のようにすぐにしおれる。
主に信頼し、善を行え。この地に住み着き、信仰を糧とせよ。
主に自らをゆだねよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。
あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ、主は計らい あなたの正しさを光のように
あなたのための裁きを 真昼の光のように輝かせてくださる。
ハレルヤ。わたしの魂よ、主を賛美せよ。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは今朝お聞きするみ言葉を、自分の生活にあてはめます。私たちは一つ一つのことばや行いに細やかな思いが行き届かずに、接する人々にイエス様を見えなくしてしまいます。もっともっと強い信仰さえあれば、全生活はうまくいくと考えます。すべきことをしたに過ぎないのに、みんなにほめられないとやる気を失ってしまいます。主よ、どうぞ憐れんでください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：テモテへの第二手紙 1 章 1-14 節

キリスト・イエスによって与えられる命の約束を宣べ伝えるために、神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロから、愛する子テモテへ。父である神とわたしたちの主キリスト・イエスからの恵み、憐れみ、そして平和があるように。わたしは、昼も夜も祈りの中で絶えずあなたを思い起こし、先祖に倣い清い良心をもって仕えている神に、感謝しています。わたしは、あなたの涙を忘れることができず、ぜひあなたに会って、喜びで満たされたいと願っています。そして、あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています。そういうわけで、わたしが手を置いたことによってあなたに与えられている神の賜物を、再び燃え立たせるように勧めます。神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。だから、わたしたちの主を証しすることも、わたしが主の囚人であることも恥じてはなりません。むしろ、神の力に支えられて、福音のためにわたしと共に苦しみを忍んでください。神がわたしたちを救い、聖なる招きによって呼び出してくださったのは、わたしたちの行いによるのではなく、御自身の計画と恵みによるのです。この恵みは、永遠の昔にキリスト・イエスにおいてわたしたちのために与えられ、今や、わたしたちの救い主キリスト・イエスの出現によって明らかにされたものです。キリストは死を滅ぼし、福音を通して不滅の命を現してくださいました。この福音のために、わたしは宣教者、使徒、教師に任命されました。そのために、わたしはこのように苦しみを受けているのですが、それを恥じていません。というのは、わたしは自分が信頼している方を知っており、わたしにゆだねられているものを、その方がかの日まで守ることがおできになると確信しているからです。キリスト・イエスによって与えられる信仰と愛をもって、わたしから聞いた健全な言葉を手本としなさい。あなたにゆだねられている良いものを、わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。

福音書朗読：ルカによる福音書 17 章 5-10 節

使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなかろうか。命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。」

讃美歌 352 番

- 1 あめなるよろこび こよなき愛を たずさえくだれる わが君イエスよ
すくいめぐみを あらわにしめし いやしきこの身に やどらせたまえ
- 2 いのちをあたうる 主よ、とどまりて われらのこころを とこ宮となし
あしたにゆうべに いのりをささげ たたえのうたをば うたわせたまえ
- 3 われらをあらたに つくりきよめて さかえにさかえを いや増しくわえ
みくににのぼりて みまえに伏す日 みかおのひかりを 映させたまえ **アーメン**

説教：「信仰を増してください」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

もっと強い信仰があったら、どんなにすばらしいだろう、と思ったことはありますか。もっと強い信仰があったら試練にあっても情けなく絶望してしまうことがない、もっと強い信仰があったらどんな人とも打ち解けて仲良くすることができる、もっと強い信仰があったらこの世の栄光や楽しみや安楽に目がくらんで神様を見失うことがなくなる、などなど、自分は信仰が足りないので本来の神様の祝福を受けることができないで、こんな人生を歩んでいるのではないかな、とがっかりしてしまうことはありませんか。

今日開かれているところでは、イエス様に従っていた弟子たち、それも使徒と呼ばれる弟子たちがイエス様に「わたしたちの信仰を増してください」とお願いしました。使徒、と呼ばれる弟子たちはルカによる福音書 6 章 13 節によれば十二人です。ペテロやヨハネやヤコブやアンデレやマタイたちです。この十二人は 9 章を見ると悪霊に打ち勝ったり、病気をいやす力や権威が与えられていて、神様の国を宣べ伝えるために村から村へと遣わされた使徒たちです。あ

とで 22 章ではイエス様とともに最後の晩餐にあずかった人々です。復活されたイエス様が自分を現わされた人々です。信仰を増してください、と言わなくても、私たちと比べることすらふさわしくないような、とても強い信仰をもってイエス様に従った人ではないでしょうか。その使徒たちでさえ、「わたしたちの信仰を増やしてください」とイエス様にお願いしています。

そういえば使徒たちは一度「あなたがたの信仰はどこにあるのか」とイエス様に言われたことがあります。ルカの福音書の 8 章です。イエス様と舟でガリラヤ湖を渡るときでした。突風がふいて舟が沈みそうになり、とても恐ろしくなってふと見ると、イエス様が舟のともの方で寝ているではありませんか。弟子たちは近寄って「イエス様、私たちはおぼれそうです！」と叫んでイエスを起こしました。イエス様は起き上がり、風と荒波とを叱ると、静まって大風になりました。そのときイエス様は「あなたがたの信仰はどこにあるのか」と言われたのでした。

ふかいない使徒たちとは裏腹に、ルカの福音書にはイエス様のもとに來たたくさんの人の信仰の物語りが記されています。イエス様なら友達の病気を治していただけると信じて担架にのせてきた人々です。藁にもすがる思いで群衆にまぎれてイエス様の服の裾に少し触れたあの女性です。人々が黙らせようとしてもイエス様に「わたしを憐れんでください」と叫びやまなかった目の不自由なあの男の人です。他にも物語りが記されています。みんなイエス様に「あなたの信仰があなたを癒したのです、安心していきなさい」と言っていたきました。

使徒たちは信仰を増やしてください、とお願いしました。イエス様は「もしあなたがたにからし種一粒ほどでも信仰があったら、大きな桑の木に『土から飛び出して海の中に根を下ろしなさい』と命じてもそうなるだろう」と言われたのです。そんなことができるのでしょうか。からし種はからしの木の種です。小さくて軽いので有名です。何ミリかししかありません。すこしの風で飛んでしまいます。からし種一粒の信仰の一言で、しっかり根を張っている大きな木を海の中に飛ばして海底に根を下ろさせることはありえますか。使徒たちにわかったのでしょうか。

使徒たちは思い違いをしていました。自分の心を見て、私の信仰は小さい、とっていました。私が信仰の強い人になったら問題がなくなると思っていました。でも信仰の強さや大きさが問題ではありませんでした。信仰はイエス様の方を向いていることです。イエス様に望みを託していることです。がっかりするような自分の弱さや罪深さに頼るのではなく、イエス様に「わたしをあわれんでください」と信頼します。イエス様は実際に助けてくださいます。救いを与えてくださいます。イエス様にはどんなことでもできます。桑の木を海に植え替えることもできます。信仰は自分にではなく、自分から向きを変えて、イエス様に頼ることです。

イエス様は僕のたとえをお話になりました。畑で働く僕と家事をする僕の二種類の僕がいたと思われるのですが、ここに登場する僕は一日中畑仕事や羊飼いの仕事をして疲れて家に帰ると、主人から夕食の用意と給仕をしてほしい、と頼まれます。自分の食事はそのあとなのです。そんなことでは遅くなってくたくたになってしまっ、食べる元氣もなくなってしまいそうです。

すべてをなしとげて、僕は主人の感謝のこぼれを期待しません。僕だからです。すべきことを果たしたに過ぎないからです。使徒たちはイエス様に従う使徒です。時には過酷と思われる使命でもイエス様がお与えになるとときには喜んでそれを果たし、自慢することなく、人々に自分の信仰のすばらしさを見せびらかせることもなく、わたしは当然のことをしただけです、とへりくだるように言われています。使徒たちはイエス様から自分たちの信仰を増やしたり強めたりしてもらえたなら、自分で満足し人が驚くような立派な成果をあげることができると思っていましたが、イエス様はへりくだってお仕えする思いに作りかえてくださっていますね。

実はイエス様がこの僕のように謙遜に私たちにお仕えくださっています。ルカの福音書はクリスマスの物語りからはじまります。どこまでも自分中心でわがままな、傲慢な私たちのために、イエス様は神の子ですのに人となって生まれてくださいました。そして、私たちの罪を赦して新しい命を与えてくださる救い主として来てくださったのに、そのために人々から排斥されて、十字架で殺されました。イエス様は救い主を殺す人々のその罪を代わりにせおってくださったので、赦されがたい傲慢なその人々の罪をすっかり赦してくださいます。よみがえってくださったその新しいいのちを、私たちにも与えてくださって、人として癒されて、自己満足や自慢に縛られないいのちに生きるのです。イエス様のように人々のためにお仕えすることを生きがいとして、お出会いする人々といっしょに幸せをつくっていくたまらなく幸せな生きがいをいただくのです。その幸せのあまり、どんなに愛に生きても当然のことをしたに過ぎないと思い、何かまだできることはないだろうか、とたずね求めます。

信仰は自分がすごい人になることではありません。自分はいつまでも倒れやすく、躓きやすく、力がなく、知恵がなく、愛がない者です。それを認めてしまったら元気がでない、と人は思います。けれども本当の私は神様の御前にはみじめな罪びとなのです。信仰はそのわたしをそのまま愛して、私の代わりに罪の裁きを受けて命を与えてくださったイエス様に向き直すことです。自分で自分を愛するのではなくて、あなたをそこまで愛して下さっているイエス様に向き直すことです。これが悔い改めと信仰です。イエス様はあなたの罪をただしく赦して、あなたに新しい生きがいを与えてくださいます。

ルカの福音書の終わりのほうでは、イエス様が捕らえられて殺される危険性がわかってきました。そんなとき使徒ペテロは胸をはって、他の人はできなくても、たとえ投獄されても殺されても、自分だけはイエス様に従います、と立派な決意を表明しました。人々はこんな信仰を立派な信仰と思ってしまいます。ペテロも勘違いしていました。こんなことをつい言ってしまえるのだから自分の信仰はもしかしたらすごいかもしれない、と実感したかもしれません。ルカの福音書の 22 章 32 節を見ると、イエス様はペテロが裏切ることをご存じだったとわかります。そして前もってペテロに、あなたのために信仰がなくならないように祈りました、立ち直ったら兄弟たちを力づけなさい、と言われました。果たしてペテロは、イエス様のご存じの通り、無残にも、そしていとも簡単に、自分の身に危険を察知するとイエス様を知らない、と言

ってしまいました。自分はすごい信仰だと思って失敗したペテロは、このことばを思い出してイエス様に向き直りました。信仰は、イエス様がお与えくださいます。このあとの聖餐式において、イエス様はあなたのために流され裂かれたご自分の体と血を、ご自分で給仕をしてくださって私たちに与えてくださいます。信仰は私たち高慢な罪びとをイエス様がご自分の死をもって赦してくださったことを感謝します。そして兄弟を励まし、人々に仕える新しい愛の心を私たちのなかに生み出します。よかったですね。今週もイエス様に向き直って、罪赦された神の子として、ご家庭の皆さんと、学校や職場や社会や近隣の皆さんと、また、教会の皆さんとともに、幸せをつくる喜びの一週間となりますように、互いにお祈りいたしましょう。

主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。」 ルカによる福音書 17 章 6 節
人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思をキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあつて我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあつて我らは生きる。※

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン
だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。 **アーメン**

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあつて我らは歩む。 ※

讃美歌 239 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 さまよう人々 たちかえりて 天(あめ)なる御国の 父を見よや
罪とが悔める 心こそは 父より与うる 賜物なれ
- 2 さまよう人々 たちかえりて 父なる御神(みかみ)の み前に行き
まことの悔いをば 言い表わせ 世人は知らねど 知りたまえり
- 3 さまよう人々 たちかえりて 主イエスの御許に とく ひれ伏せ
わが主は憐れみ み手をのべて こぼるる涙を 拭いたまわん
- 4 さまよう人々 たちかえりて 十字架の上なる イエスを見よや
血潮の滴る み手をひろげ 「生命を受けよ」と 招きたもう **アーメン**

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊の、おお御神よ、ときわに たえせず み栄えあれ、み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏